第16回 沼津市災害ボランティアコーディネーター協会　通常総会 議事録

開催日時	2021年4月4日（日）　13:30～14:30
開催場所	静岡県沼津市日の出町1-15 サンウェルぬまづ　2階 大会議室
出 席 者	来賓5名（沼津市3名、社会福祉協議会2名） 沼津市　市長　賴重 秀一 様 沼津市　危機管理監　芹澤 一男 様 沼津市危機管理課　主事　及川 尚亮 様 沼津市社会福祉協議会　会長　工藤 達朗 様 沼津市社会福祉協議会　地域福祉係　西山 宜生 様 出席者　30名　（＋委任状提出者 11名）
議　　事	第1号議案　2020年度 事業報告及び決算報告 第2号議案　沼津市災害ボランティアコーディネーター協会 新役員（案） 第3号議案　2021年度 事業計画（案） 第4号議案　2021年度 予算（案） 第5号議案　規約改定（案）
司　　会	磯崎 剛 氏
議　　長	尾沢 昌己 氏
配布資料	1.　第16回 通常総会資料
書　　記	渡辺 茂樹 氏、大野 登志子 氏

（以降 敬称略、発言者 **太字**）

1. 開会の辞（**副会長 冨田**）

本日は皆様、お忙しい中、また、遠方からお集まりいただきありがとうございます。これより、第16回沼津市災害ボランティアコーディネーター協会定期総会を始めます。

2. 会長挨拶（**会長 田中**）

本日は大変お忙しい中、第16回沼津市災害ボランティアコーディネーター協会通常総会にご出席いただきありがとうございます。沼津市から市長 賴重様、危機管理監 芹澤様、危機管理課主事 及川様、沼津市社会福祉協議会から会長 工藤様、地域福祉係 西山様にお越しいただいております。会を代表して厚く御礼申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動が思ったような活動ができませんでした。その中で、感染症拡大、あるいは複合災害など、災害ボランティア本部の運営の新たな課題というものが見つかったと思っております。

新型コロナウイルス感染症の影響が今年度も引き続きあると思っています。時代の変化における一つ一つの課題を解決し、早ければ2030年代の前半に訪れるであろう南海トラフ巨大地震に向けて、災害ボランティア本部のあり方について考えていきたいと思っております。

ご来賓の皆様には、今後とも協会の活動に関しまして、一層のご支援、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

また、会員の皆様には、今後とも変わらぬご協力をいただきますようお願い申し上げます。

3. 来賓紹介（**司会 磯崎**）

沼津市	市長	賴重 秀一 様
沼津市	危機管理監	芹澤 一男 様
沼津市危機管理課	主事	及川 尚亮 様
沼津市社会福祉協議会	会長	工藤 達朗 様
沼津市社会福祉協議会	地域福祉係	西山 宜生 様

4. 来賓祝辞

（沼津市長 賴重様、沼津市社会福祉協議会 会長 工藤様よりご祝辞をいただいた。）

沼津市 市長 賴重 秀一 様

本日は、沼津市災害ボランティアコーディネーター協会の通常総会、第 16 回目を迎えられたということで、新型コロナウイルス感染症拡大の中、新しい生活様式を意識していただいて、感染防止対策をしっかりと行った上での通常総会を開催していただいていますことに対し、あらためて心から感謝申し上げます。また、通常総会がこのように盛大に開催されましたことを、心からお祝い申し上げます。

さて、皆様方におかれましては、常日頃より本市における防災活動、また緊急時、このようなものに対して、様々な民間からの色々なご意見等を含めた活動を展開していただいていることに対し、あらためてこの場をお借りし、心から感謝を申し上げます。

ご案内の通り、私どもの沼津市は、北に富士山があり、南に伊豆半島、西に駿河湾、東には世界的に有名な箱根があるということで、大変自然環境に恵まれた、誇りに思えるようなすばらしい環境があります。このような自然環境、これを地域資源と呼んでいますが、この地域資源を活用した様々な取り組みを行い、この地域の発展のために尽力しているところです。

しかしながら、このような恵まれた自然環境があるということは、合わせて、この自然環境に対して災害時においての対応をしっかりと行なっていかなければならない、そういうことも含まれていることを念頭におかなければならないと感じているところであり、様々な、国や県を始めとした各種団体の皆様方と連携をしながら、様々な事業を展開しているところです。

ご案内の通り、昨今においては、まさに自然災害は激甚化しているというイメージで捉えられます。東日本大震災は、平成 23 年に発災して 10 年目を迎える、そのような状況にありますが、福島県沖においては、マグニチュード 7.3、最大震度 6 強の地震、これが余震だったという話を聞き、大変驚いております。このような状況がいまだに続いているということと、合わせて、平成 23 年の状況を思い起こしてみますと、平成という時代は、本当に災害の多かった時代であったなと捉えています。雲仙普賢岳の噴火から阪神淡路大震災、そして先ほどお話ししました平成 23 年の東日本大震災、このようなものが立て続けに起きるような状況にありまして、令和の御代になって、そのような危険性、リスクがなくなるのかと言えば、そのようなことは全くないというような状況です。皆様におかれましても、ご記憶に新しいとは思いますが、昨年の 7 月においては、梅雨前線の活発化によりまして、集中豪雨が発生し、九州地方等は大変な状況でした。

また、最近においては、「線状降水帯」という新しい言葉が出てきて、断続的に大雨が降るという状況で、一昨年も、この地域においては、昭和 33 年の狩野川台風の再来と言われた台風 19 号が 10 月に襲ったというような状況でした。沼津市においては、大平地区を始めとした多くの地域で浸水が発生するなど、このような被害が実際に出てしまいました。

このような状況にしっかりと対応していくためということで、国土交通省の皆様が中心になっていただき、「狩野川流域治水協議会」を立ち上げました。沼津市は河口部に位置するところですので、全ての水をとにかく受け入れるしかないという状況です。そういう点においては、沼津市単体の色々な災害対応はしっかりと行わなければならないわけですが、上流部の皆様方との連携により、流域全体の治水が行われるということは、大変ありがたいと考えています。ぜひ、流域地域の皆さんのご協力をいただきながら、地域の治水対策にしっかりと行ってまいりたいと思います。

また、最近においては、皆様のご記憶に新しいとは思いますが、非常にショッキングなニュースがありました。富士山の噴火のハザードマップが 16 年ぶりに改定という形になりましたが、これを見ますと、溶岩流が沼津市まで到達すると記載されていました。沼津市以外にも清水町も含まれるということで、大変驚いたところです。聞くところによりますと、想定されている噴火口が 88 箇所ほどあるということで、そのいずれかの場所で最大の噴火量、溶岩量が噴出した場合、57 日後までに沼津市まで到達するという想定ということでした。本当にそのような状況になるのかなということで、私どもも非常にわからない部分がたくさんあるところですが、このようにシミュレーションが実際に発表された以上は、やはり、対象となる地域の皆様方と噴火対策、溶岩対策をしっかり行っていかなければならないなと考えています。

ご案内の通り、大規模化する自然災害、先ほど会長の方から南海トラフのお話しがありましたが、まさにこのことに対しては喫緊の課題として捉えなければならないと考えています。このことについては、まさに「自助・共助・公助」このような取り組みをしっかりと行わなければならないわけですが、残念ながら平成 23 年の東日本大震災において「公助」の役割の限界というものが露呈してしまったということになります。我々も一生懸命、その「公助」が成しえるようにしっかりと取り組むわけですが、「自助」「共助」の部分については、やはり、多くの市民の皆様方、そして本日ご参集いただいています皆様方のご理解ご協力が本当に必要不可欠であると考えています。

ましてや、皆様方におかれましては、日々の活動の中において、ボランティア活動や社会貢献活動、このようなものにしっかりと取り組んでいただいている証があります。これは、緊急災害時において、本当に多くの市民の皆様にとってはありがたい存在であり、いつも、どこにおいても、リーダーとしての役割、努めをしっかりと果たしていただきたいと思います。

そのためにも、本日は危機管理部門も同席させていただきましたが、市役所を挙げて、皆様としっかりと勉強させていただき、この地域の安全安心の確保のために取り組んでまいりたいと考えているところでございますので、今後もご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたりまして、本日の通常総会を契機といたしまして、皆様方の活動がさらに大きく広がっていくことと、合わせまして、ご臨席賜っております、皆様方がご健勝にてご活躍されますことを心からお祈り申し上げます。本日はご盛会、誠におめでとうございます。

沼津市社会福祉協議会 会長 工藤 達朗 様

今日を迎えるにあたりまして、おそらく、皆様方、会長を始め、コロナ禍の中で総会が開催されるかどうか、どうしようかということで、随分悩まれたことではないかと思います。しかし、このように盛大に開催されたこと、誠におめでとうございます。

また、日頃から社会福祉協議会の様々な活動に対しまして、皆様方のご理解、ご支援をいただいていることに対しまして、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、沼津市災害ボランティアコーディネーター協会の皆様には、コーディネーター養成講座への協力を始め、ボランティア本部設置訓練、ネットワーク化等、様々な場面で積極的に活動してくださっていることに対しまして厚く感謝申し上げます。

昨年は、コロナ禍の中で、様々な活動がだいぶ制約を受けたのではと、先ほど会長さんからもお話がありました。

思い出してみますと、先ほど市長のお話しにもありましたが、2011 年の 3 月 11 日、(午後) 2 時 46 分、私は市役所の 7 階に勤務しておりましたので、ぐらっときて、ぐらぐらぐらぐら、いつまで揺れのだろうというぐらい、長ーく揺れていたのを今もって体で実感しております。たぶん、皆様方もそれぞれの場で、すごい地震の揺れを感じられて、今も記憶なさっているのではないかと思います。それから約 10 年経ちますが、先月の 20 日に、宮城県沖で震度 5 強の地震がありました。余震という言われ方をしておりますが、あの地震も比較的長かったですよね。一瞬、あの 10 年前の揺れをもう一回感じたような気がいたしました。

近年、地震や豪雨災害等、自然災害は、これは温暖化の現象もあるのではないかと言われていますが、年々大規模化をしてきたような気がします。備えを常にするということとともに、やはり、ゆめゆめ油断してはいけないなと、あらためて思っているところです。そのため、沼津社協としては、呉や熊本等大きな災害があると、社協の職員を派遣して、色々な形で対応しています。その時に、帰って来た現場の職員から、どうだったかと話を聞きますと、やはり、災害ボランティアやコーディネーターの皆様のご協力無くして復旧はありませんと、行く度に、戻って来た職員から報告を受けます。

したがいまして、皆様方と共に活動できるということは、とても心強く、頼もしく感じているところでもあります。沼津社協といたしましても、地域福祉活動計画に基づいて様々な活動をしますが、その活動計画の最重要項目といたしまして、災害対策というものを挙げております。平常時から広いネットワークや支援体制の構築が重要となってきておりまして、今後共、災害時にあわてることなく対応するために、皆様方とより一層の連携を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたりまして、協会のますますのご発展と皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げまして、お祝いの挨拶といたします。誠におめでとうございます。

(ここで、沼津市長 頼重様、沼津市危機管理監 芹澤様、沼津市社会福祉協議会 会長 工藤様が退席された。)

5. 総会成立宣言 (**司会 磯崎**)

本日の総会は、現会員 55 名に対して、出席 30 名、委任状 11 名、計 41 名で、規約に基づく条件を超えておりますので、成立をお知らせいたします。

6. 議長選出

(司会者一任の発言があり、司会 磯崎の指名により議長 尾沢が選出され、登壇した。)

7. 議事

第 1 号議案　2020 年度　事業報告及び決算報告 (頁 2、3)

(会長 田中より、2020 年度の事業報告があった。)

(会計 杉沢より、2020 年度の決算報告があった。)

(監査 山本より、2020 年度の会計監査報告があった。)

(質疑はなく、承認された。)

第2号議案　沼津市災害ボランティアコーディネーター協会　新役員(案)　(頁4)
(会長 田中より、2021年度の新役員は2020年度の役員が継続するとの説明があった。)
(異議はなく、承認された。)

第3号議案　2021年度　事業計画(案)　(頁5)
(会長 田中より、2021年度の事業計画案が説明された。)
(質疑はなく、承認された。)

第4号議案　2021年度　予算(案)　(頁6)
(会長 田中より、2021年度の予算案が説明された。)
＜質疑応答＞

岩﨑：
予備費（繰越金）が120万以上あるが、当初、私共は奉仕活動でお金を集めた。「災害対策金」等、項目を少し変えてはどうか。というのは、繰越金があまりに多いと、社会福祉協議会からの助成金が抑えられてしまうので。

植松：
田中会長から今年度は積極的な活動をという発言があった。それがこの金額、5万円等、少し寂しい感じがするので、思い切って15万円、20万円等、そういう気持ちがやはり大事ではないか。その方が私達も元気が出る。そうでないと下を向いてしまう、ぜひ。計画だから、もう少し、ホラを吹けとは言わないが、気持ちだけ、ぜひ（お願いしたい)。女性の会員も増えたので、思い切って。あるお金でやるわけだから、皆さんの寄付でもらうわけで。岩﨑さんが言ったように、120万、130万あるわけで。会長、思い切って予算を上げた方が良いと思う。金額については執行部の皆さんにお任せするが、ぜひ検討してほしい。

山田昌：
ここで具体的に項目を決めたらいかがか。あるいは、岩﨑さんの方で、提案する項目があるならそれで。皆さんの意見を聞いたらどうか。

岩﨑：
沼津市で災害が起きた時のお金というのは、社会福祉協議会や赤十字から出るとは思うが、そんなものを待っていられない、いざという時には。項目的には、このお金は「災害対策費」あたりがいいのではないか。

田中（回答）：
「災害対策費」に関しては、執行部で考えて、別額の予算、別枠の預貯金あたりで考えていきたいと思う。訓練費の増額については、訓練内容を考えて、まずは必要であれば、予備費等から支出、規模に応じて考えていきたい。

武田：
予備費のところ、岩﨑さんからの話もあったが、別途積立金で、別項目で、項目を考えて、そこに入れるべき。予算を組んでもう入れていくという形をとった方が良いのではないか。

田中（回答）：
ぜひ、執行部、役員で検討していきたい。

議長 尾沢：
皆様のご意見を参考にして、役員会でこの件については検討して処置をする。

(今の意見を承るということで、承認となった。)

第５号議案　規約改定(案)　(頁７)

（会長 田中より、2019 年に規約改定プロジェクトで決まったが、昨年度の総会が書面決議だったために今年度の起案になったとの事情説明があり、その後、規約改定案が説明された。）

＜質疑応答＞

武田：

これ（第２条の２と第３条の３）は、残しておくべきではないかと思う。やる・やらないは役員のところで決めてもらえば良い。順位、どちらの方に主軸を置いていくかということは、今話に出てきたが、この項目からはずすというところまでの必要はないのではないか。ここで、実際にやった（災害ボランティア本部を運営している）ところを現実に見て、それをこちらのコーディネーターのところに反映できるところが結構あるのではと思う。

渡辺茂（回答）：

はずしたわけではない。現在の VC の活動の項目をすべて洗い出した。その中には、被災者支援、募金活動も入っている。それを３つの大きなグループに層別した。今回提案したものは、この３つを重点項目にしたということ。敢えて消さなくても良いのではないかという被災者支援、募金活動は（第３条の）第２項目の「関連ボランティア団体との連携を図る」という活動の中に入れてある。消しているわけではない。活動は今まで通りやっていくのだが、活動そのものは、この２項（の中）に入っているということになる。

山田昌：

今、話しているのは第２条か第３条か。

渡辺茂（回答）：

第３条である。第２条「目的」の２については、改定して、第２条は１項だけにした。ボランティアコーディネーターということを考えると、（被災者支援は目的ではなく）、１つの活動項目という捉え方をしている。（よって、第３条の「事業」に入れた。）今、「事業」（第３条）について説明した。

岩﨑：

やはり、こういったものは皆にわかりやすいような言葉が良いと思う。今、削った第３条に、難しい言葉がずっと入っているが、これはいかようにも解釈できると思う。でも、もっと具体的に、簡素化した方が良いと思う。

渡辺茂（回答）：

言葉の簡素化ということ等の前に聞いてほしかったのは、VC はまゆうとして、私が入って５、６年になるが、色々な活動をやってきた。その活動の中身には、どんなことがあるのかを全部洗い出した。

ここに今持っているが、色々な活動をした項目を洗い出した。その洗い出した中を、例えば「ネットワークづくり」等、層別、大きなくくりを作った。その大きなくくりを作った時に、今ここで言っている重点項目の３項目の言葉にまとめ上げた。２年前のことであるが、少なくとも１年かかって、VC はまゆう皆さんの意見、参加してくれる人、定例会で何回も議論して、今回こういうまとめにした。これでわかりにくいと言われると、また少し考え直した方がいいのかもしれないが、１年間かけてメンバーがこういう形でまとめたということを、もう少し理解して読み込んでいただきたい。

金子：

今の議論の中で、３条の３項の話と２条の２項の話、これが密接につながっている話だと思うが、私は２条の２項を削除するという案に賛成である。

というのは、本来の災害ボランティアコーディネーター協会の目的は何だといった時に、ボランティアとして活動、被災者を支援する活動がコーディネーター協会の活動なのかどうか。本来、コーディネーター協会の活動というのは、コーディネートすることが主目的ではないか、そういう議論の中からこの２項が削除されたという風に私は理解している。

もちろん、先ほど話があったように、どこかで発災した時に、ボランティアとして活動して、そこで勉強した物を持ち帰ってもらう、こういうことは個人の活動としてどんどんやっていけば良いことだと思うし、これをコーディネーター協会の「目的」の中に入れてしまうと、ちょっと目的がぼけてしまうのではないか、そういう風に考えて、２条の２項の削除に賛成した。そこから派生していくと、「事業」として考えた時に、３項の見直しは、やはり自然なのかなという風に個人的には思う。

議長 尾沢：

ただ今の皆様の意見への受け止め方を、田中会長から一言だけまとめてほしい。

田中：

今、金子さん、渡辺さんから説明があった通り、基本的に、コーディネーターの本質、目的は何かというところから議論が始まり、プロジェクト、会合で検討した。やはり、コーディネートするということに主軸を置くということから、目的から（第２条の）２項が当てはまりにくいというのが、確かに言った通りである。それを基に、先ほど渡辺さんが言った通り、どんな活動があるかを洗い上げ、それをどのようにカテゴライズするかという内容を、プロジェクトのメンバーが素案を出し、定例会に出席者全員の意見を聞き、まとめたものがこの規約改定案になる。

確かに、東日本大震災、熊本、広島等で、ボランティア活動そのものをしていたことはあった。それは、行った先、行ったところで、そこ（被災地）の団体、社会福祉協議会等との連携を深めるということで、（第３条の）２項の活動の中にカテゴライズされている。それは渡辺さんが説明した通り。

言葉的に難しい言葉が出ているかもしれない。「受援力」等、難しい言葉があるかもしれない。受援力とは、支援する力、支援をされたら受ける力、両方が必要になってくるということで、今回の規約改定に結び付けている。

色々ご意見があると思う。それは受け止めるが、方向性としては、１年間かけて考えたものなので、ぜひとも受け入れてほしい。

大野：

先ほどの金子さんの意見を聞いて、規約をもう一度読んだ。この資料には書いていない部分を少し読ませてもらう。第２条は「目的」である。この目的に関しては、今、会長も言った通り、第２条の２項「沼津市以外で災害が発生した場合、被災者を支援する」という部分を削除するということ。

第３条「事業」には、前文という形で１文ある。そこには、「この会は前条の目的を達成するため次の事業を行う」とある。前条というのは第２条のことなので、第２条「目的」の２項を削除することに皆さんが賛成ならば、自然と第３条「事業」の３項も削除されることになる。そのことを金子さんが言ったと思う。資料にはその文言（第３条の前文）が載っていなかったので、追加した。

議長 尾沢：

この第５号議案の「規約改定」については、皆さん、考えているところにそれぞれ違いがある。ここで、挙手をとりたいと思う。賛成の方は挙手してほしい。

（賛成多数により、承認された。）

なお、貴重な意見を今もらったので、今後また、協会の中で機会があるごとに議論していきたい。

以上、第1号から第5号議案について、審議が終了したことをここに申し上げる。

（拍手の中、議長が降壇した。）

8. 閉会の辞（**副会長 冨田**）

本日はご清聴ありがとうございました。ただ今をもちまして、第16回沼津市災害ボランティアコーディネーター協会定期総会を終えたいと思います。

9. その他

感謝状授与（**会長 田中**）

この5名の方は、災害ボランティアコーディネーター協会入会後10年の長きにわたり、当協会の活動にご理解、当協会の発展に多大なるご尽力をいただいた方々です。感謝状を差し上げたいと思います。

（本日出席の2名の方に直接授与した。他3名の方には郵送する。）

（会員の要望により、会長 田中が2021年度役員の名前を読み上げ、紹介した。）

（司会 磯崎により、閉会が宣言された。）

以上

以上の議決を明確にするため、議長並びに議事録署名人は、次に署名押印する。

2021年5月9日

議　　長　尾沢昌己　印

議事録署名人　田中功　印

議事録署名人　冨田恒雄　印